

# 学校評価についての総括評価表

## ◆はじめに ◆

本校では、平成27年度当初に作成しました「学校評価計画」に基づき、教育活動を進めてまいりましたが、このたび、その評価結果をまとめましたので、ご報告いたします。

評価にあたりましては、「学校評価アンケート」などを通じ、多くの貴重なご意見ご感想をお寄せいただき、誠にありがとうございました。アンケート結果は、全教職員で検討し、学校関係者評価委員会を経て、次年度に向けての教育活動の課題などを明らかにしました。今後とも、こうした学校評価結果を踏まえ、教育活動の充実・発展に努めますので、引き続きご理解とご協力くださいますようお願いいたします。

重点課題	重点目標	評価指標と活動計画		評価		学校関係者の意見	次年度への課題
		評価指標			評価指標による達成度		
<p>(1) 中高一貫教育を活かした系統的な指導体制の確立</p>	<p>① 学校運営面での中高連携の促進に努め、異年齢集団における社会性の育成を進める。</p> <p>② 6年間の計画的・継続的な教育の研究を進め、中高の一貫性を促進する。</p>	<p>① 中高合同の教育課程検討会や教科会を定期的開催する。</p> <p>② 儀式的行事や体育祭・文化祭だけでなく、必要に応じて行事等を中高合同で実施する。</p> <p>③ 特別活動などで、学年をまたがったの活動を取り入れる。</p>	<p>① 中高一貫教育推進委員会を年6回、また中高合同の教科会・授業研究会を2回実施した。</p> <p>② 例年通り、入学式などの儀式的行事や体育祭・文化祭を行い、アンケート結果より、保護者・教職員のそれぞれ91%(前年度90%)・100%が、高校生との理解を深めるのに有効と回答している。ただし生徒の数値が82%(前年度87%)と減少しており、今後の行事のあり方について検討も必要である。</p> <p>③ アンケート結果より生徒の95%(前年度85%)、保護者の95%(前年度96%)が、6年間を見通した特色ある教育を行っていると回答しており、一定の評価を得られているものとする。</p>	<p>評価指標による達成度</p>	<p>総合評価</p> <p>(評定)</p> <p><b>B</b></p> <p>-----</p> <p>(所見)</p> <p>生徒・保護者のアンケート結果では、全体の9割近くが、本校の中高一貫教育について肯定的である。特に生徒・保護者とも高い割合を保っているが、児童数の減少に伴い志願者数も減少傾向にある現状がある。本年度は本校が創立10周年の節目でもあり、今後に向け、より具体的に本校の目指す学校像を明確にし、生徒・保護者に伝えていくことが必要である。</p> <p>今年度は、数学の先取り学習などの特色ある取り組みに加え、高校生と中3生が学習面で交流するなど今後につながる試みも行われており、継続して取り組んでいきたい。</p>	<p>○中高一貫推進委員会を年6回実施して、懸案等を話し合うことで成果を上げ、学校の魅力を増し、生徒・保護者の高い信頼を得ていることは評価できる。数学の先取り学習など特色ある取り組みを、学校の存在意義として積極的に検討実施してほしい。</p> <p>○ホワイトボードを使った、数学の先取り学習であるアクティブラーニングは、中高一貫教育としてすばらしい取り組みである。どうぞ継続してやっていただきたい。</p> <p>○数学の先取り学習は今後も継続してほしい。</p> <p>○高校生による中3生への学習指導は、中3生の話聞いても有意義であると思う。ぜひ今後も続けてほしいと思います。</p>	<p>○前年度同様、数学の先取り学習に関する課題はあったが、中高一貫教育推進委員会等において検討し、引き続き継続して先取り学習を実践した結果、先取りによる効果が得られたと考える。特に今年度は「言語活動の充実に関する実践研究指定もあり、従来のSAに加え、高校生による中学3年生の学習指導など、異年齢間の交流が促進されており、今後の継続した取り組みを深めたい。</p> <p>また、高校への進学に関しては、より一層中高一貫教育の理解を得るように努める。</p> <p>創立10周年を終えるにあたり、本校の目指す学校像をこれまで以上に明確にし、生徒・保護者に伝えていくことが必要である。</p>
		<p>① 併設高校と連携し、教科会を通して6年間のシラバスづくりをする。</p> <p>② 中学生・高校生がともに参加する共通の学校行事を設定する。</p> <p>③ 生活オリエンテーションや球技大会など、学年の枠を越えた活動を実施する。</p>	<p>① 中高一貫教育推進委員会を年6回実施し、一貫教育における懸案等を話し合った。特に本年度は、中高合同の教科会の他、授業研究会を実施し、互いの授業参観における感想やアクティブラーニングについての話し合いを行った。</p> <p>② 例年通りに入学式、対面式、身体計測、始業式・終業式(学期ごと)、全校集会(毎月)、文化祭・体育祭、人権教育講演会、芸術鑑賞会等を中高合同で行った。また、本年度も高校総体壮行式には中学生全員が、中学総体壮行式には高校生徒会役員が出席し互いの理解をより深めることができた。</p> <p>③ 高校生による中3生への学習指導など、新しい試みも行われた。</p>	<p>活動計画の実施状況</p>	<p>活動計画の実施状況</p>		

重点課題	重点目標	評価指標と活動計画		評価 価		学校関係者の意見	次年度への課題
		評価指標			評価指標による達成度		
(2) 確かな学力の充実と指導力の向上	① 個別面談の充実や、朝の学習、家庭学習など自主学習の促進に努める。  ② 学力向上を図る研修の充実や、授業の創意工夫に努める。	① 授業に意欲的に取り組む生徒の割合を80%以上にする。 ② 「質問タイム」や「補充学習」が学力向上に有効であるとする生徒・保護者80%以上をめざす。 ③ 毎日の家庭学習時間が2時間以上をめざす。 ④ 1年間で1種類以上の検定に挑戦し、合格する生徒の割合80%以上をめざす。 ⑤ 読書の推進に努め、年間読書冊数を一人5冊以上をめざす。  ⑥ 中高連携の参観授業や研究会を年間3回以上実施し、授業力向上を図る。	アンケート結果 ① 77%の生徒が意欲的に授業に取り組んでいると答え、63%の保護者が家庭学習に主体的だと回答している。 ② 86%の生徒、82%の保護者が「質問タイム」や「補充学習」が学力向上に有効であると回答している。 ③ 学習時間調査(1月実施)で、全校生徒33%が30分～1時間、58%の生徒は2時間以上の学習をしている。 ④ 各種検定の達成率 漢字検定に81%の生徒、英語検定には86%の生徒が挑戦している。また、1年間に1種類以上の検定に挑戦した生徒の割合は87%であった。 ⑤ 年間読書冊数5冊以上の達成率、1年生67%、2年生81%、3年生48%であった。 ⑥ アクティブラーニングの指定もあり、授業公開や、教科間での中高連携も実施できた。		総合評価  〈評定〉  B  ----- (所見) 教師の100%が常に授業に熱意を持ち工夫した授業を展開していると回答している。また、家庭学習時間2時間の目標は、生徒に定着しており、昨年より21%上昇している。しかし、「何をしてもわからない」などの回答から、主体的な学びを身に付けさせる必要がある。	○「卒業までに3級以上の資格を2種類以上取得する」を生徒と約束していることは中だるみを防ぎ目標を常に意識させるのには効果を発揮している。テスト前の「質問タイム」やテスト終了後の「補充学習」は個々の生徒に合わせた細かい指導として効果が出ている。 ○英語検定、数学検定はどここの学校でも行っているが、漢字検定を実施している学校は少ないと思う。漢字離れが進んでいる今日だからこそ必要と思う。質問タイムと補充学習の工夫改善で生徒の学びが積極的になったことは、先生方の手間暇かけた努力のたまものと思う。 ○漢検等の資格取得を目標とすることは、生徒のモチベーションを維持するためにはいいことだと思う。 ○読書の推進は素晴らしいと思います。中学棟から離れている図書室の積極的な利用を促すため、さらなる工夫をお願いいたします。漢検、数検、英検については、高校生になっても引き続き上の級の取得を目指せるよう環境作り、また指導をお願いします。	○本校の生徒の良さは、落ち着いて学習に取り組んでいるということだ。しかし、自主的な家庭学習の工夫、定期テストに向けての計画的学習の不足は、生徒のやる気を引き出す指導力が必要だと考える。また、携帯電話やインターネットの使用と使用時間にも問題が多く、学習への弊害がある。家庭との連携を取りながら改善したいと考える。  ○資格取得への関心が高まり、合格した時の達成感などが、次への熱意となっている生徒が増えている。検定学習の時間の確保をどのように取り入れるか。  ○本校生徒は、読書の楽しさや喜びを感じており「読書離れ」はしていないと考える。身近な教室の学級文庫の図書を増やしたり、良書を購入したりしたい。
		活動計画	活動計画の実施状況	アンケート結果 ① 89%の生徒が、「わかりやすく授業が工夫されている」と回答している。研修の実施や、授業の工夫が「学びの力」につながっている。 ② 「質問タイム」・「補充学習」の形を工夫改善したことで、生徒の学びが積極的になった。 ③ 89%の生徒が「至誠ノート」を提出しており、家庭学習の習慣は身に着いている。 ④ 漢字検定合格者 ・・・・合計87名 5級 32名(3名) 4級 38名(10名) 3級 15名(35名) 準2級 2名(4名) 2級 0名(1名) ※(53名)は第3回検定結果待ち 英語検定合格者 ・・・・合計54名 5級 5名(16名) 4級 16名(32名) 3級 32名(31名) 準2級 1名(3名) ※(82名)は第3回検定結果待ち 数学検定受検者(2/9日実施予定) 5級 19名 4級 5名 3級 19名 準2級 1名  ⑤ オーストラリアへの語学研修に19名の生徒が参加し、異文化体験の発表をした。	本校生徒の学習の約束に「卒業までに3級以上の資格を2種類以上取得する」とある。これが生徒自身の目標となり意欲的になっている。真面目な生徒が多く「至誠ノート」の提出率は高いが、主体的な家庭学習のために役立っているかは十分でないと考えられる。  図書館は中学校棟から離れていることから、利用者数は少ないが、読書冊数は増えている。また、語彙力や知識、想像力や世界観が変わるなど、読書から得た者が多いと答えている。  体験活動は本校の柱であるため、今後も推し進めたい。		
		① 指導方法の工夫、改善のための研究授業及び研修会を定期的実施する。 ② テスト前の「質問タイム」やテスト終了後の「補充学習」を確実に実施し、個々の生徒の力を伸ばす。  ③ 主体的な学びの力を育成するために家庭学習の習慣と自主学習ノートの「至誠ノート」を工夫・充実の指導を図る。  ④ 漢検・数検・英検などの資格取得をめざすことで、基礎学力の充実、達成感や学びの意欲向上をもたせる。  ⑤ 体験的な活動を計画的に実施するとともに、外部との連携を積極的に取り入れることで社会性を育て、問題を解決する能力を養う。また、海外語学研修の実施や国際性を高める活動を実施することで、言語能力の育成と個々の進路に役立てる。					

平成27年度 徳島県立川島中学校 学校評価についての総括評価表(3)

重点課題	重点目標	評価指標と活動計画		評価 価		学校関係者の意見	次年度への課題
		評価指標			評価指標による達成度		
(3) 生徒の能力・適性に 応じた進路の実現	① 進路指導プログラムの改善・充実を図り、 進路達成意欲を高める。  ② 三者面談・年次PTAなどにより保護者との連携強化に努める。	① 「質問タイム、補充学習(全学年)、 スペシャルアプローチ(3学年対象) は役に立っている」と思う生徒の割合、 75%以上をめざす。  ② 6年間を見通したキャリア教育を実施するとともに、 それぞれの発達段階に応じたさまざまな体験活動を実施する。  ③ 「進学説明会」、卒業生を迎えての授業「 ようこそ先輩」の実施を通して、 高校教育への理解を深め、今後の進路指導につなげる。	アンケート結果 ① 生徒の87%、保護者の81%が質問タイム・ 補充学習、スペシャルアプローチが有効であると回答した。  ② 生徒の95%、保護者の95%がキャリア教育や 様々な体験活動が進路の選択に役立っていると回答した。  ③ 生徒85%、保護者88%が高校からの進路説明会や、 併設高校に在籍する高校生と語り合う機会「 ようこそ先輩」が進路の選択に役立っていると回答した。		総合評価  (評定)  B  ----- (所見) ほとんどの項目で昨年度と数値はほぼ 同等であり、本校の進路指導におおむね 理解をいただいていると思われる。特に 様々な体験活動においては生徒・保護者 ともに高い数値が見られる。質問タイム ・補充学習については、生徒の数値が昨 年度よりも下がっているものの、目標に 近いものであった。また、高校説明会 は、生徒・保護者ともに好評であった。 高校体験入学・先輩の話も定着してきて おり、中学生にとって高校生活や進路に ついて考えるよい機会となっている。	○中高一貫校であっても、「進学説明会」 や「ようこそ先輩」の実施は、信頼して 併設高校へ進学するために重要なこと である。キャリア教育としても「ものづく り体験学習」「職業体験」は大切である。 ○6年間を見通したキャリア教育とりわけ 体験活動が進路選択に役立っている。そ の割合が生徒・保護者ともに95%はす ごい数字である。また、「ようこそ先輩」 も大いに進路選択に役立っていることが わかった。 ○高校生との交流をもっと活発にしてほ しい。 ○大学視察は素晴らしい企画なので継続 してほしい。 ○高校生との異年齢間交流により、高校 生活や今後進むべき道のイメージが作ら れているようです。生の声を聞くこと によってより具体的に進路等について考 えることができる素晴らしい機会だと思 います。	○進路指導体制の確立をはかり、1学 年から計画的に進路指導を行うととも に、高校との効果的な連携をはかる。  ○フューチャー・体験活動について は、これまで同様、6年間を見通しな がら、生徒の実態に沿った内容で柔軟 にプログラムを組むことが重要である。  ○併設高校に在籍する高校生と語り合 う機会は、高校からの説明をより具 体的に示すものとして好評であり、 今後も継続して実施したい。
		活動計画	活動計画の実施状況				
		① 質問タイム、補充学習(全学年)、 スペシャルアプローチ(3学年対象)を 実施する。  ② 6年後の目標を持たせる「キャリア 教育」を実施する。  ③ 3年生を対象とした川島高校による 進学説明会・卒業生を迎えての授業 「ようこそ先輩」を実施するとともに、 川島高校体験入学への参加を定着さ せる。  ④ 生徒の進路指導充実のため、家庭訪 問、三者面談、個人面談を充実させ る。	① 質問タイム、補充学習を定期テストに 合わせて年5回実施した。また、夏期休 業日(8回)・冬期休業日(3回)の質 問タイムを実施した。また例年通り、 高校へのスムーズな移行を図るため、 10月以降に週2回のスペシャルアプ ローチを実施した。  ② 1年生は、ものづくり体験学習を 実施した。2年生は、職業体験など を実施した。生徒は、これからの自 分の進路を具体的に考える機会とな った。  ③ アンケートにも見られるように、 高校体験入学や高校の先生・先輩の 話は、高校生活をより具体的に とらえることができ、大変好評であ った。また3年生への説明を1学期 に、2年生への説明を2学期に 実施した。  ④ 家庭訪問(7月)、二者面談(4月、 12月、3年生は12月の面談は 三者面談)を実施した。その他必要 に応じて適宜家庭訪問を実施した。				

平成27年度 徳島県立川島中学校 学校評価についての総括評価表(4)

重点課題	重点目標	評価指標と活動計画		評価		学校関係者の意見	次年度への課題	
		評価指標			評価指標による達成度			
						総合評価		
(4) 基本的な生活習慣の確立を図る生徒指導の徹底	① 生徒一人一人の自覚を促し、基本的な生活習慣を身につけさせる。  ② あらゆる教育活動をおとして、きめ細やかな生徒指導を行いいじめ防止等の取り組みに努める。	① 校則や交通ルールの遵守をめざす。特に登下校時の交通事故ゼロに努める。  ② あいさつの励行、90%以上をめざす。  ③ 携帯電話の安全教育について充実を図り、マナー向上や不正使用の問題解決を推進する。  ④ いじめ防止、早期発見に努め、問題の背景や環境要因も考慮し適切な解決に努める。	① アンケート結果 校則、交通ルールに関して生徒93%(昨年95%)保護者95%(昨年95%)が守れていると回答。安全意識は高いが事故は起きている。  ② アンケート結果 生徒76%(昨年78%)、保護者88%(昨年89%)があいさつをよくしていると回答。  ③ 携帯電話に関しては、生徒88%(昨年92%)、保護者88%(昨年84%)が正しく使用していると回答した。使用に関して危機感が感じられない。  ④ アンケートや「至誠ノート」を始め普段の生活状況等を通して担任が注意深く観察し、いじめ早期発見に努める。また、校則違反や問題行動等が見受けられた場合、速やかに保護者に連絡を取り、面談の場を持った。交通事故防止等を集会等で指導するほか、登下校時立哨指導を実施した。	(評定)  B  ----- (所見) 自転車運転中の自損事故や交通事故が毎年発生している。交通事故は幸いにも重大な事故には至っていないが交通ルールやヘルメット着用の指導を徹底したい。 携帯電話やスマートフォンの所持に教員は危機感を持っている。メールやラインを遊びに利用し、様々な問題が発生している。また、JR車中での使用(ゲームを含む)が増加傾向にある。これは学校の指導だけでなく、保護者の協力が不可欠である。中学生集会や、学年集会を利用して、自己肯定感や生命の大切さについて指導した。また、おもしろ半分勝手に写真や動画を掲載することは許される行為ではなく、人権侵害やいじめ等、重大な事件につながる恐れがあることを指導した。さらに規範意識についても指導してゆきたい。	(評定)  B  ----- (所見) 自転車運転中の自損事故や交通事故が毎年発生している。交通事故は幸いにも重大な事故には至っていないが交通ルールやヘルメット着用の指導を徹底したい。 携帯電話やスマートフォンの所持に教員は危機感を持っている。メールやラインを遊びに利用し、様々な問題が発生している。また、JR車中での使用(ゲームを含む)が増加傾向にある。これは学校の指導だけでなく、保護者の協力が不可欠である。中学生集会や、学年集会を利用して、自己肯定感や生命の大切さについて指導した。また、おもしろ半分勝手に写真や動画を掲載することは許される行為ではなく、人権侵害やいじめ等、重大な事件につながる恐れがあることを指導した。さらに規範意識についても指導してゆきたい。	○「携帯電話校内使用禁止」が校則として守られていることは、素晴らしい指導実績だと思う。メールやラインを遊びに利用し、様々な問題が発生しているのは、どの学校でも問題になっている。いじめにもつながっており自己肯定感の育成や規範に式の醸成に一層努めてほしい。 ○地域住民の声として、生徒の挨拶はもっとできているように感じる。それは、部活動をしている生徒がいつも大きな声で挨拶してくれるからかも知れないが、住民をさわやかに心地よくしてくれていることに感謝したい。 ○携帯電話・スマホの使い方について(SNS等)、もっとプライバシーの保護について徹底して教育してほしい。 ○自転車の乗り方が良くない特に国道および交差点。 ○あいさつは、校内外においてよくできておりすばらしいと思います。通学時の自転車のマナーと携帯電話、スマートフォンの使用については、家庭での指導が第一ですが、学校においても引き続き指導願います。	○全項目について指導の徹底を図るが、特にあいさつの励行については校外での登校、下校時についても呼びかけをして100%の実施につなげたい。  ○家庭と密接に連携し、安全で安心して生活できる学校づくりを推進していく必要がある。  ○問題行動には携帯電話やスマートフォンを使用したメールのやりとりが多い。そこで、外部機関を利用した携帯電話安全教室のより一層の充実を図り、トラブル防止の徹底をしたい。 また、定期的にアンケート等を実施して生徒の生活状況を把握し、いじめ等の問題行動を未然に防ぎたい。	
								活動計画

重点課題	重点目標	評価指標と活動計画		評価		学校関係者の意見	次年度への課題
		評価指標			評価指標による達成度		
<p>(5) 人権尊重の精神の涵養を図る人権教育の推進</p>	<p>① 人権教育指導計画の改善と、“あわ”人権学習ハンドブックの活用を図る。</p> <p>② 人権尊重の意識を高めるため、創意溢れる具体的な取組の展開に努める。</p>	<p>①「本校の人権学習の内容は適切であり、人権教育は充実している。」と思う生徒の割合、90%以上をめざす。</p> <p>②「人権の大切さを学び、それを日常生活に活かそうとしている。」と思う生徒の割合、90%以上をめざす。</p> <p>③「人権を大切にしている教育活動が行われている。」と思う保護者の割合、90%以上をめざす。</p>	<p>①アンケート結果 生徒78%、保護者78%が、「生徒は人権学習に積極的に取り組んでいる。」と回答。</p> <p>②アンケート結果 生徒83%、保護者81%が、「生徒は人権について学習したことを日常生活に活かそうとしている。」と回答。</p> <p>③アンケート結果 生徒85%、保護者84%が、「本校では人権を尊重する考え方や態度を育てる教育が行われている。」と回答。</p>	<p>総合評価</p> <p>(評定)</p> <p>B</p> <p>-----</p> <p>(所見)</p> <p>本校は、多くの小学校から入学してきているという実態があり、人間関係づくり仲間づくりを大切にしながら、日々実践を重ねている。話し合い活動や表現活動を多く取り入れ、コミュニケーションの能力を養う機会を多く設けており、生徒が主体的に学習に取り組めるような授業形態を工夫している。体験的参加型学習は、生徒が積極的に学んでいくために効果的であった。</p> <p>インターネットと人権侵害について学ぶことで、加害者にも被害者にもならないために、さらに学んでいきたいという意欲を持つことができたようだ。</p> <p>さらに、学習したことがら態度化・行動化につなげられるような工夫をしていく必要がある。そのために、教職員の研修を充実させるとともに、生徒の校外での研修や外部講師による学習も積極的に取り入れていきたい。</p> <p>中高合同で行っている「人権の日」の校内放送は、視野を広め考えを深めるために役立っている。さらに、高校生と共に学んでいく機会を設けていきたい。</p>	<p>○「人権の日」を設け、生徒が、学んだことや自分たちの思いを校内放送で発表することは、とても大切では非継続していただきたい。勉強だけでなく、人間関係づくりの取り組みも一層お願いしたい。</p> <p>○生徒は様々な学校から来て互いに出会い、新しく人間関係づくりやコミュニケーション能力が必要になってくる。そのために、相手の立場で考える力や態度化につなげていく日々の営みや、体験的な学習や参加型学習など、先生方が連携して工夫したことがよくわかります。</p> <p>○携帯電話・スマホ等の使い方によって、人権侵害の恐れがあるため、その対策として講習会を複数回実施してほしい。</p> <p>○本校生徒は様々な小学校から入学していることもあり、入学当初は人間関係の構築に苦労している生徒もいるようです。相手の気持ちが理解でき、コミュニケーション能力を備えた大人になれるよう、引き続きご指導願います。</p>	<p>○生徒一人一人とじっくり向き合いながら、人権教育の土台である人間関係づくり・仲間づくりをこれからも継続的に進めていきたい。すべての教育活動の中で、自分も人も大切に、大切にされる集団をつくっていく取組を日々続けていきたい。</p> <p>○人権教育で学んだことの実践化のために、学習内容・学習形態をさらに工夫していく必要がある。教師自身も研修を重ね、人権感覚を磨いてきたい。</p> <p>○インターネットによる人権侵害の加害者にも被害者にもならないために、さらに学習を深めていく必要性を感じている。</p> <p>○中高の連携をさらに図りながら、合同で学んでいく機会を増やしていきたい。</p> <p>○PTA人権教育講演会など、さらに保護者との連携をとりながら、人権教育を推進する必要がある。</p>	
		活動計画	活動計画の実施状況	<p>①各教科における人権教育年間計画を作成し、授業や学校生活の中で人権教育の推進を図った。</p> <p>・“あわ”人権学習ハンドブックや「わたしの願い」を活用し、普遍的な視点と個別的な視点を結び合わせながら、各学年で共通の内容の学習を進めていった。クラスを越えた意見交換も行っていった。</p> <p>②人間関係を築く能力やコミュニケーション能力、他の人の立場に立って考えられるような想像力を培うために、また学んだことの態度化・行動化につなげるために、生徒の実態を把握するとともに授業形態も工夫した。</p> <p>・学期に1回は生活アンケートを行い、生徒一人一人や学級・学年・学校の実態を把握することに役立てていった。情報モラルに関するアンケートも行い、インターネットによる人権侵害を未然に防ぐための授業を行った。</p> <p>・スクールカウンセラーによる人間関係づくりのワークショップを実施し、協力しながら生徒の指導に生かしている。</p> <p>・生徒が主体的に参加し、体験することで人権感覚を身につけることができるよう、体験的参加型学習を多く取り入れた。</p> <p>・識字学級訪問(2年生 8月)</p> <p>③人権委員会の活性化を図った。</p> <p>・校内人権問題意見発表会を実施(6月)</p> <p>・月1回「人権の日」を設け、中高合同で様々な人権問題について考える時間を持っている。校内放送でも、学んだことや自分たちの思いを全校生徒に向けて発表した。</p> <p>④PTA人権教育講演会</p> <p>・笹岡郁子さんによる講演(11月)</p> <p>「ひとりひとりが輝くために」</p>			
		評価指標					

平成27年度 徳島県立川島中学校 学校評価についての総括評価表(6)

重点課題	重点目標	評価指標と活動計画		評価		学校関係者の意見	次年度への課題
		評価指標			評価指標による達成度		
(6) 心身ともに健康な生徒を育てる特別活動の充実	① 学校行事，生徒会活動を通じて生徒の自主性の育成に努める。  ② ホームルーム活動(学級活動)や部活動のより一層の活性化を図る。	① 学校行事(体育的活動)に積極的に参加をさせる。  ② 学級活動(体験活動)の充実を図る。積極的に部活動への参加を促す。	① アンケート結果 生徒 95% 保護者 92% が学校行事が適切に行われていると回答。  ② アンケート結果 生徒 97% 保護者 95% が学級活動は，豊かな心を育むために役立っていると回答。		(評定)  A  ----- (所見) 学級や学校の一員として望ましい人間関係を形成し，よりよい生活づくりを参画し，諸問題を解決しようとする自主的，実践的な態度や健全な生活態度を育てることができた。	○ 「学校行事が適切である」や「学級活動が豊かな心を育む」に対して生徒・保護者から高い支持を受けている。中高一貫教育の特色を生かした取り組みが大きな成果に結びついている。 ○ 学校行事や学級行事に生徒保護者が積極的に参加し，学校が活性化している様子がわかります。学校行事に生徒・教師・保護者が積極的に参加し成功させようと燃えることが愛校心や自尊感情を高めていく。 ○ 部活動をもっと活発にしてはどうか？(生徒の選択肢を増やし，他校との合同チームを結成する等，可能性を探る。 ○ 本校の学校行事は充実しており，さらに健康な生徒を育てよう今後も指導をお願いします。	○ 学校生活や生徒会活動，学級活動の目的を再度見直し，より充実した学校生活を生徒が送れるよう不断の改善を図っていききたい。
			① 目的や運営のあり方を見直し，学校行事をより充実したものにする。  ② 各生徒会専門委員会の意義や役割を周知し，生徒が自主的に活動出来るように生徒会活動の活性化が図れるようにする。  ③ 学校生活や学級における身近な課題を話し合い，総合的見地から自主的・実践的に学級の合意が図れるよう指導する。	① 学校行事 入学式 4月 忌部の郷めぐり 4月 修学旅行 6月 体育祭，文化祭 9月 遠足 11月 球技大会 12月  ② 専門委員会 専門委員会を定期的実施し，呼びかけや活動について，中学生集会で全校に周知徹底した。  ③ 特別活動の各領域を通じて，望ましい人間関係を形成し，集団や社会の一員としてよりよい学習生活づくりに参画しようとする態度を育てることができた。また，生徒が学校や学級への所属感や連帯感を深め，協力して諸問題を解決し，よりよい学校，学校生活を築こうとする自主的，実践的な態度を育てることができた。			

重点課題	重点目標	評価指標と活動計画		評価		学校関係者の意見	次年度への課題
		評価指標			評価指標による達成度		
						総合評価	
						<b>(評定)</b> <b>B</b>	
						----- (所見) 「清掃や美化活動に積極的に参加するとともに、ゴミの分別・節電・節水等に努めている。」と答えた生徒が目標値より13ポイント低い結果となり、生徒の意識を高めることができなかった。  国際理解教育において、「世界の中の日本」「日本との文化や考え方の相違」を知ることで、自分の行動について考えを深める機会とした。	
		活動計画			活動計画の実施状況		
(7) 環境教育及び国際理解教育の推進	① 新学校版環境ISOに取り組むなど環境保全活動に努める。  ② 国際性を高めるため積極的に国際交流を図る。	① 新学校版環境ISO認証校として、清掃や美化活動に積極的に参加するとともに、「ゴミの分別・節電・節水等に努めている」と回答する生徒の割合、80%以上をめざす。また、電気、水道の使用量については、前年度より増えないようにする。  ② 本年度実施の海外語学研修に向け、適切な準備を行う。大学の教員などを講師として招き、国際理解についての講演会を実施する。	① アンケート結果 ・ 電気、水道の使用量は、ほぼ前年度と同じであったが、生徒の67%が、新学校版環境ISO認証校として、「清掃や美化活動に積極的に参加するとともに、ゴミの分別・節電・節水等に努めている。」と回答しており、目標値80%より13ポイント低い結果となった。  ② 国際交流 ・ 語学研修の参加希望者とその保護者を対象に、説明会を実施し、参加生徒には事前学習を実施することで、研修に臨む意識を高めることができた。 ・ 79%の生徒が国際的視野を広げるの役立ったと回答している。			○ 語学研修に多くの生徒が参加されることは、高く評価できる。清掃や美化活動に対する問題意識までの気持ちを気長に育てていただきたい。  ○ 節電、節水、ゴミ分別は具体的な目標が必要。ある程度は学年対抗、クラス対抗でよくできた学年表彰、クラス表彰があっても良い。国際理解教育は異文化を知り理解することだけでなく日本の良さや川島中の良さを海外に発信も可。 ○ 国際交流は、予備知識も必要だと思うので(社会背景等)その教育も必要ではないか。 ○ 使用電気料や水道料を数値化して明示してはどうか？ ○ 今後も重要度が増すと思われますので「環境教育」「国際交流」の時間を増やすなど積極的に行ってほしい。	○ 生徒が「新学校版環境ISO」についての理解を深め、行動に移せるように、環境委員会を中心とした活動を再考し、改善を図ることが必要である。  ○ 国際交流の充実を図ることは、日本に生きる自分の立ち位置を知ることでもあるので、「交流会」ではなく「知る」活動をどのように取り入れていくのが課題である。



重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価		学校関係者の意見	次年度への課題
<p>(8) 開かれた学校づくりと安全教育の推進</p>	<p>① 地域貢献活動等などの活性化や、ホームページ等を活用した広報活動の充実を図り、家庭や地域の連携を深めるとともに、外部評価結果を活かす取り組みの推進。 ② 地域と連携した安全・防災教育の積極的な推進に努める。</p>	<p>評価指標</p> <p>① 参観日や学校行事等、保護者が学校に来る機会をできるだけ多く設けるとともに、「参観日や学校公開の日など、保護者が学校に来る機会が多くある」と思う生徒及び保護者の割合、80%以上をめざす。 ② ホームページやメール配信により学校の様子を伝える。「ホームページやメール配信は、学校の様子を知る上で役立っている」と思う保護者の割合、80%以上をめざす。 ③ 防災避難訓練に真剣に取り組んでいる生徒の割合、80%以上をめざす。</p>	<p>評価指標による達成度</p> <p>① アンケート結果 生徒 85%、保護者 97%が、「参観日や学校公開の日など、保護者が学校に来る機会が多くある。」と回答している。 ② アンケート結果 保護者 85%が、「ホームページやメール配信は、学校の様子を知る上で役立っている。」と回答している。 ③ 生徒の取組状況はおおむね良好であり、積極的に活動することができた。</p>	<p>総合評価</p> <p>(評定)</p> <p style="text-align: center;"><b>B</b></p> <p>-----</p> <p>(所見)</p> <p>授業参観の参加率は79%と昨年度に比べさらに2ポイント上昇したがこれは1年生の参加率が非常に高かったからである。1年生は仕事の都合で来られない方が多いとされておりまた、家族で来られている人もいた。この良き伝統を守っていききたい。</p>	<p>○「ホームページやメールの発信」について役立っていると高く評価されている。校内合唱コンクールなど取り組みは効果的に行われている。 ○保護者の参観日や学校行事への参加率の多さにびっくりする。保護者の学校への期待が高いことの現れと思われる。先生方と生徒のアットホームな雰囲気や関係にも好感を持ち支援している保護者が多数いるということである。 ○中高一貫教育をもっと宣伝すべきでは？ ○PTA活動に参加して良かったことをもっとPRすべきである。 ○本校は保護者が学校に来る機会を多く設けており非常にすばらしいと思います。学校のHPは多くの保護者が見ており内容、更新頻度等さらに充実してほしい。</p>	<p>○本校の大きな特色である授業参観等の高い参加率を維持するために、教師が平日頃の授業から内容の充実から心掛けなければならない。 ○外部講師を招いての様々な授業は有意義であるが、その分通常の授業時間の確保が問題となってくる。行事の精選も考えなくてはならない。特に今年は第九合唱の練習も重なって生徒も教師もたいへん慌ただしかった感は否めない。来年の第九練習では、負担を減らし、かつ効果的な練習のあり方を工夫しなければならないと思う。 ○ホームページの更新をもっと早くするために、教師全員が更新に関わるように教師のスキルを高める研修をしなければならない。 ○防災学習をカリキュラムの中に適切に位置づけ、より効果的な学習が行われるよう工夫していきたい。</p>
		<p>活動計画</p> <p>① 保護者や地域に開かれた学校づくりとして、授業参観、学年部会、中高一貫教育懇談会等を開催する。 ② 専門的な知識や技能を有する地域の方を招聘しての学びの機会をさらに増やすことにより、多様な学習活動の充実と地域の方の本校教育への理解を深める。 ③ 本校の特色を地域に理解してもらうため、パンフレットなどを作成し、近隣小学校に配布するとともに、小学校保護者を対象とした説明会を実施する。また、ホームページも充実する。 ④ 小学6年生とその保護者を対象とした入学者募集説明会を実施する。 ⑤ 防災避難訓練にあたっての事前、事後指導の徹底をはかり、総合的な学習の時間で防災を扱う。 ⑥ 防災クラブの活動の活性化を図るための取り組みを行う。</p>	<p>活動計画の実施状況</p> <p>① 授業参観3回、参加率79%程度 中高一貫教育見学会(7月) 参加者105名 とくしま教育の日(11月) 学年部会(5月) 高校説明会 3学年対象(7月) 高校説明会 2学年対象(10月) 校内合唱コンクール(3月) ② 外部講師を招いての主な授業 薬物乱用防止教室 全学年4月(2名) 携帯電話安全教室 全学年4月(1名) AED講習会 全学年6月(10名) 防災学習 全学年7月(1名) 人間関係づくりワークショップ 1年7月(1名) 大谷焼き陶芸教室 1・2年7月(3名) 先輩から学ぶ 2年10月(10名) 職場体験学習事前学習 2年10月(1名) 保育実習 1年12月(12名) 思春期学習講座 3年12月(3名) 防災講演会 全学年2月(1名) 防災学習出前授業 1年2月(1名) 第九合唱練習 7月～12月 計9回(25名) 他 ③ パンフレットを作成し、近隣の小学校に配布するとともに、訪問説明会を22校で実施した。また、ホームページの更新や、メール配信を随時行うことにより、学校の様子を保護者に伝えた。 ④ 10月に実施、参加者96名。その時に企画広報委員会で作成した広報誌「絆」も配布した。 ⑤ 中高合同の避難訓練(2回)やJアラート訓練など、生徒は積極的に参加し、学年単位で防災に関する授業を行った。防災講演会や防災クラブの活動を通して、全校生徒、保護者の防災・減災への意識の向上を図った。 ⑥ 校舎内ガラスに飛散防止シート貼付作業の実施、防災講演会や防災研修会、地域防災訓練等に参加した。</p>	<p>中高一貫教育見学会の参加者は昨年に比べて70名減と大幅減となった。また、入学者募集説明会の参加者も12名減であった。  本校の防災学習や避難訓練には保護者の82%から肯定的な評価を得ている。</p>		